

日吉図書館開館40年

座談会：日吉図書館の「今まで」と「これから」

〈出席者〉

よこやま ち あき
横山 千晶
(司会・日吉メディアセンター所長)

いわなみ あつ こ
岩波 敦子
(理工学部教授)

おさ だ すすむ
長田 進
(経済学部教授)

よし だ たいよう
吉田 大洋
(図書館フレンズ・理工学研究科修士1年)

くろ き ゆい か
黒木 唯花
(学習相談員、図書館フレンズ・商学部4年)

せきぐち もと こ
関口 素子
(日吉メディアセンター事務長)

あさ ひ な はな こ
朝比奈華子
(日吉メディアセンター)

せ と じまひろ み
瀬戸島弘美
(編集・日吉メディアセンター)

所属は2025年5月30日時点

日吉図書館の「今まで」と「これから」をテーマに、横山千晶日吉メディアセンター所長の司会ののもと、当館にゆかりのある教員2名と学生2名、職員2名による座談会を行い、これまでの思い出やエピソード、今後の日吉図書館に期待することについて、ざっくばらんに語り合ってもらった。



横山 本日はお集まりいただきありがとうございます。日吉図書館は、慶應の大先輩・楨文彦先生が「船」をイメージして設計され、入口のスロープは「栈橋」を表しています。開館から40年間航海を続けてきたこの図書館が、次の航海に進んでいけるよう、今日はぜひ皆さんのお話を伺いたと思います。

利用者ニーズに応えるサポート

横山 岩波先生は古い文献を探される機会も多いと思いますが、日吉メディアセンター¹⁾のサポートはいかがでしょうか？

岩波 国内に一冊あるかどうかという資料も多いのですが、問い合わせるとすぐに複数の入手方法を示していただけます。昨年出版した著書執筆で1,000件近い文献が必要になった際も、メディアセンター

の協力で資料にたどり着けました。情報リテラシーセミナー²⁾も毎回内容が更新され、私自身学び直しの機会となっています。

横山 黒木さんは学習相談³⁾にも関わっていらっしゃいますが、デスクには学生以外の利用者も来られますか？

黒木 私が担当する学習相談は学生が中心ですが、レファレンスデスクには幅広い年齢層の方がいらっしゃいます。夏には通信教育課程の方、授業期間中の午前中には教授の姿も見かけます。資料が充実しているからこそ、学部生だけでなく研究者のサポートも可能なのだと思います。

横山 朝比奈さんはレファレンス対応で、どんな点を意識されていますか？

朝比奈 会話を大切にしています。急ぎで資料を求める方もいれば、探し方が分からない方もいます。相手のニーズを丁寧に聞き出し、その方に合った資料を提供できるよう心がけています。

黒木 私も、何気ない会話の中で相談の核心が見えてくると感じているので、やりとりを大切にしています。

横山 最近はAIも進化していますが、会話を大切にするのは人間ならではの重要なポイントですね。

図書だけではない「メディアセンター」

横山 日吉キャンパスには1・2年生が多く集まります。日吉メディアセンターは、そんな若い世代にとって図書館が居心地の良い場所になるよう努めています。図書館フレンズ⁴⁾(以下「フレンズ」とする)

の皆さんにも、さまざまな面で協力していただいています。その活動のひとつとして選書ツアーがありますが、吉田さんはこれまでも複数回ツアーに参加なさっているそうですね。

吉田 はい。2024年、2023年に参加しました。フレンズ10名程度と職員1名で大型書店へ足を運んで選書を行うのですが、自分の関心だけでなく、1・2年生のうちに読んでほしい本も意識して選びました。選定した図書の展示もフレンズの活動の一環です。

朝比奈 選書された本は新聞・雑誌コーナー横の階段の踊り場に展示されています。

横山 展示って大事ですね。私は本の表紙を見て読みたくなることが多いので。長田先生は学生時代、AVブースを活用していたと伺いました。



長田 最初は図書館に映像資料⁵⁾があることが不思議でした。でも行ってみたら、映画史に登場するような名作もあって。以来、映画を観て帰る生活が続きました。教員になって情報リテラシーセミナーをお願いしていますが、そこで「ここは本だけじゃなく、データベースや映像・音声資料など、すべての情報を扱うから“メディアセンター”なんだ」と職員の方が言われて。「ああ、なるほど」と納得しました。情報がたくさん詰まっていて面白い場所だなと感じていました。大学にとって図書館のあり方はすごく重要だと思っています。以前いた大学では、分野横断的に資料を探すには複数の図書館を回る必要がありました。でも慶應ではメディアセンターに行けば、ある程度そろっている。横断的な研究している者にとって、これは本当にありがたいです。

横山 さまざまな形式の情報を集めてくれる力がメディアセンターにはありますよね。

関口 ありがとうございます。日吉の場合、1・2年生の学部生だけでなく、研究者や協生館の3つの大学院の学生など、幅広く対応していけるように資料を選定しています。最近では、学生が自分たちで本を選ぶ「塾生選書」⁶⁾も実施していて、図書館

員だけでは拾いきれない視点から資料が選ばれるので、蔵書の幅が広がっていると感じます。映像資料では、DVDは5,000本以上所蔵していますが、置いてある場所は事務室内です。そのため、学生がふと見て「こんなものもあるんだ」と思ってもらえるように、DVDのパッケージだけを展示するなど、小さな工夫もしています。目に見えない資料も多いので、それにどう気づいてもらうかが課題です。

岩波 KOSMOS上で図書を検索すると、関連する図書の表紙が見られますが、DVDパッケージもこのようにオンライン上で見られる仕組みがあると良いですね。装丁や表紙の印象って大事ですし。

横山 確かに、先ほども述べた通りですが、カバーから受け取る印象や情報は大きいですね。

岩波 せっかく多くのDVDを所蔵しているのですから、もっと活用されると良いですね。

何度も訪れたいくなる、自分の居場所

横山 ここからは少し未来の話をしたいと思います。まずは岩波先生、今後日吉メディアセンターにはどんなふうになっていってほしいと思われませんか？

岩波 キャンパスごとにメディアセンターの雰囲気は異なると感じていますが、先ほど黒木さんもおっしゃっていたように、その中でも日吉は、多くの人に開かれた場所だと思います。退職された教員も訪れるのを楽しみにしているようですし、大学院生や研究者が集中して勉強している姿もよく見かけます。学生はもちろん、塾員を含む幅広い世代が利用できる点に大きな魅力を感じています。こうした雰囲気は、この40年の間に試行錯誤を重ねて育まれてきたものだと思います。また、学生主体の取り組みも日吉ならではの特徴です。ビブリオバトルやコンサート、学習相談など、学生の視点が運営にしっかり反映されていて、今後もそうした姿勢を大切にしていってほしいと感じます。

横山 吉田さんも黒木さんも、今は日吉キャンパスに通っているわけではありませんが、それでも日吉メディアセンターで活動してくださっているのは、やはりこの場所ならではの雰囲気があるからでしょうね。吉田さんはビブリオバトルにも参加されていますが、それ以外にも、日吉メディアセンターの資料や魅力を伝える方法として、何か良いアイデアはありますか？

吉田 フレンズの展示のように、既に取り組まれている仕掛けもありますが、学生からもっと提案が出てくると、さらに良い形に進化していくと思います。たとえば、文系の内容を理系のキャンパスで紹介したり、逆に理系の話題を日吉で取り上げたりと、キャンパス間で情報を共有するのも面白いのではないのでしょうか。日吉には多様な背景を持つ学生が集まっているので、情報の交流の拠点としての役割を果たすことができるはずです。将来的には、地域の人々とも知識を共有し、対話が生まれるような場所になれば理想的だと思います。



岩波 確かに日吉キャンパスは慶應の中で最も関係学部が多いキャンパスですので、例えば、それぞれのキャンパスのメディアセンターを通して、その向こう側にいる学生たちと交流するような場ができたらしたら面白いかもしれないですね。

長田 今の話を聞きながら、他のキャンパスのメディアセンターもいろいろ思い浮かべたのですが、やっぱり日吉が一番「柔らかい」雰囲気だと感じます。構えて利用するというより、目的がなくてもふらっと立ち寄れて、ぼうっと過ごせるのが心地いい。あの雑誌コーナーなんて、何もしないでただ座っているだけでも意外と楽しくて。静か過ぎず、でもうるさくもない音の感じがちょうどよくて、集中もしやすかった。天井が高くて音の響きも独特で、あの空間がすごく好きでした。それから、電源や設備が少しずつ充実してきて、年々使いやすくなっているのを感じます。場所として明るくて落ち着けるし、レファレンスルームや2階東閲覧室あたりは、自分にとって特に居心地の良い場所でした。日吉はキャンパスの中心にもなっていて、いろんな人が行き来する場所でもありますよね。だからこそ、ただ機能的なだけでなく、「なんとなく居たい」と思わせる空気があることが、日吉の魅力なのではと思います。

横山 黒木さんは日吉メディアセンターを施設とし

て使ってみて感じることはありますか？

黒木 私も居心地の良さを感じていますが、学生たちは主に自習スペースとして使っている印象があります。今日も多く席が埋まっていて活用されている一方で、少しもったいなささも感じます。私は2階のバルコニー⁷⁾が好きで、小説を手にとってソファで読む時間を楽しんでいます。学生にももっと気軽に本と関わる機会があるといいなと思います。

横山 そうですね。日吉メディアセンターには本当にたくさん本があるので、自習だけでなく、楽しんだり自分から学んだりするようになると良いですよ。施設面でかなり工夫が感じられますが、そのあたり関口さん、いかがでしょうか？



関口 はい。見学に来た方に「この建物は40年経っているんですよ」と話すと、皆さん「そんなに古いなんて思えない」と驚かれます。実際には、壁の塗り直しや什器の更新など、キャンパスからの予算で毎年少しずつでも整備ができていて、本当に助かっています。また、スタッフが日々施設の状態を細かくチェックして「ここが傷んでいます」といった報告が上がることで、早めの対応ができ、良い状態を保てていると思います。先ほど黒木さんがお話されていたバルコニーは、最近、本棚の配置を少し見直しました。以前は本を取るときに、後ろのソファ席とぶつかることがあったので、棚の向きや間隔を見直しました。小さなことですが、そうした使いにくさを一つずつ改善していきたいと思っています。もし気づいた点があれば、ぜひ教えてください。皆さんの声を反映させながら、より良い図書館を目指していけたらと思っています。

岩波 日吉メディアセンターには多様なスペースがあり、学生それぞれが「自分の場所」を見つけて利用していると感じます。静かな隅を好む人もいれば、大きな机で対面して座るのが好きな人もいて、画一

的ではない空間づくりがされています。自分だけの居場所って大事ですね。

横山 そうした工夫は素晴らしいと思います。最近ではオンライン授業や就職活動などの面接で利用できる「声出しブース」⁸⁾ができたと聞きました。多様なニーズに応えようとしているのは本当にありがたいですね。

日吉メディアセンターならではのイベント

横山 場所としても素晴らしいですが、日吉メディアセンターは展示やイベントにも力を入れていますよね。

朝比奈 日吉キャンパスには、大学生活にまだ不安を抱えていたり、これから本格的に学びを始めようとしていたりする1・2年生がたくさんいます。そうした学生たちを、さまざまな角度から支援していくことが日吉メディアセンターの重要な役割だと考えています。そのために、我々スタッフは「企画展示ワーキンググループ」と「読書推進ワーキンググループ」という2つのチームを組んで、前者は館内展示を通じて情報発信を行い、後者は主にフレンズの活動を支援しています。私は読書推進ワーキンググループに所属し、学生たちの自主的な読書活動を後押ししています。また、レファレンス担当として学習相談の活動にも関わっており、特に4月の新入生向けイベントでは、大学での勉強方法や有意義な学生生活の過ごし方についてアドバイスをを行いました。学術の世界の入り口に立つ学生たちにとって、図書館が安心して使える場となり、自然と足を運びたくなるような存在でありたいと日々意識しています。



関口 今、朝比奈さんが話した学習相談のイベントは、学習相談の学生たちが自ら発案してくれたものなので、彼らの主体的な取り組みにとっても感謝しています。

岩波 地下のAVホールを活用して、映画上映会や、その後みなで感想を述べあったりするイベントがあっても楽しいかもしれませんね。

これからの日吉メディアセンターへ

横山 もっとたくさんお話を伺いたいところではありますが、時間が来てしまいました。最後にみなさん日吉メディアセンターに期待することを一言ずつお願いいたします。

岩波 今後もますます人が集う場所になってほしいと思います。学生の中にはサークルに入っていなかったり、教室でも一人でいたりする人もいます。そういう人が「ここが自分の居場所だ」と思えるような場所はとても大切です。授業や食堂は長く居られる場所ではないけれど、図書館は好きな時間に来て自由に過ごせます。本を読むだけではなく、リラックスしたり、自分のペースで使ったりできる場所として、これからも開かれた場であり続けてほしいです。

吉田 岩波先生がおっしゃっていたとおり、いろいろな学部の人が集まるからこそ、中心地としての役割があると感じます。実際、寝ている学生もいるくらい自由で、それぞれが思い思いに過ごしています。そういう意味で、この図書館は「自分の居場所だ」と感じられる、居心地の良い空間になっていると思います。ほかの図書館と比べても、古風なイメージではなく、新しいデザインを取り入れている点が印象的です。また、個人的には、地域とのつながりがもっと深まるといいなと思っています。もちろん難しい面もありますが、慶應には門がなく、外の人も入りやすいという特徴があります。そうした開かれた環境を活かして、地域との交流の場がもっと増えるといいなと感じています。

黒木 私も「居心地の良さ」を大切にしてほしいと考えています。日吉メディアセンターは、いろんなブースがあって、ゾーンごとにテーブルや椅子のデザインが違っていたりして、本当にそれぞれが自分に合った居場所を見つけやすい空間だなと感じています。そうした快適さに加えて、もっと「本との関わり」を感じられるような、素直に本を楽しめる場所になっていくといいなとも思っています。

長田 やっぱり私は日吉の図書館がすごく好きですね。建物の雰囲気やディテールを含めて、とても魅力的だと感じています。ですので、これからもっと図書館が開かれた存在になるといいなと思います。同時に、私は教員という立場でもあり、主に1・2年生の授業を担当しています。学生たちは、大学に

入ったばかりで、いろいろなことに慣れる前に卒業してしまうこともあるので、できるだけ早い段階で図書館の使い方を覚えてもらいたいと思っています。たとえば、データベースにはどんなものがあるのか、図書館にはこんな資料まで揃っているのか、というようなことを知ってほしい。実際に図書館に足を運ぶことで、ネットだけでは得られない発見もありますし、そういった体験を通じて、学びの幅が広がる

場になるといいなと感じています。

横山 次は開館50年、その次は100年、この先も図書館はどんどん進化していきます。そしてその進化にはみなさんの存在が欠かせません。どうぞこれからも日吉メディアセンターを支えていただけたら嬉しいです。本日はお忙しいところ、ありがとうございました。

(2025年5月30日 日吉図書館1階所長室)



座談会参加者

(左から岩波先生・長田先生・横山所長・黒木さん・吉田さん・朝比奈さん・関口さん)

注記

- 1) 日吉メディアセンターは協生館図書室を含む組織の名称であるため、本来は建物名である「日吉図書館」と表記するのが正確である。しかし、日常的に日吉メディアセンターと呼ばれることが多いため、本座談会では発言されたとおりの呼称を用いて表記する。
- 2) 授業を担当する教員の要望に合わせて行うセミナー。内容は、教員とメディアセンターレファレンス担当者と相談しながら決定する。
- 3) 教養研究センター設置科目「アカデミック・スキルズ」を履修した学部2～4年生・大学院生による、レポートの書き方やプレゼンテーションの基本についてサポートする活動。2008年度から教養研究センター、日吉メディアセンター、日吉学生部の共催により実施している。慶應義塾大学日吉メディアセンター。“日吉メディアセンター 学習相談”。慶應義塾大学リサーチナビ。
https://libguides.lib.keio.ac.jp/hys_studyadvice。
- 4) 「『読書』という共通の趣味を通じた学生活動の場を図書館で」を合言葉に、2015年春に始まった学生によるボランティア組織。学生自身の目線から、読書や図書館の魅力を伝えることを目指した企画展示など、様々な活動を行っている。慶應義塾大学日吉メディアセンター。“図書館フレンズ”。慶應義塾大学リサーチナビ。
https://libguides.lib.keio.ac.jp/hys_friends。

- 5) 1階AVコーナーでは、日吉図書館所蔵のDVD、ブルーレイ、ビデオ、レーザーディスク、CDなどが利用できる。
- 6) 2009年10月より、学生の声を収集する手段として、学生に自由に選書をしてもらうラウンジ選書がスタートした。2020年度～2021年度はコロナ禍により休止していたが、2022年度より図書館フレンズの学生による選書として再開（「フレンズ選書」）、2024年5月より「塾生選書」と名称を変更し、図書館フレンズ以外の塾生にも自由に選定してもらう以前の形式に戻した。
見島知子。日吉メディアセンターの読書推進活動計画。MediaNet. 2010, no. 17, p. 68-71.
<https://www2.lib.keio.ac.jp/publication/medianet/article/pdf/01700680.pdf>
- 7) 図書館の入り口の真上に位置する東向きのスペース。ベストセラー小説や話題の図書、ガイドブックなどの軽読書用図書が「バルコニーコレクション」として配架されている。
山中みどり。“学生の憩いの場—バルコニーコレクション—”。慶應義塾日吉図書館開館20年記念誌。慶應義塾大学日吉メディアセンター編。横浜、慶應義塾大学日吉メディアセンター、2006, p. 14-15。
- 8) 2024年11月、AVコーナーにオンライン授業やオンライン会議をするための1人用「声出しブース」4席を設置した。